



●作家

フアン・ラモン・ヒメネス  
Juan Ramón Jiménez (1881-1958/スペイン)

20世紀を代表するスペイン詩人のひとり。スペイン・ウエルバ県モゲールに生まれる。セビリア大学で法律を学ぶが、詩に傾倒してマドリッドに赴き、モデルニスモ文学を代表する詩人ルベン・ダリオと出会う。父の急死をきっかけに精神に不調をきたしフランスで療養、その後モゲールへ戻る。1936年内乱を逃れキューバ、アメリカに移住し、その後プエルトリコに定住する。1956年ノーベル文学賞受賞。代表作に『プラテロとわたし』『石と空』など。

●作曲家

マリオ・カステルヌオヴォ＝テデスコ  
Mario Castelnuovo-Tedesco (1895-1968/イタリア)

イタリアの作曲家。9歳で最初のピアノ曲を作曲。1914年にフィレンツェ音楽院ピアノ科を修了後、作曲科に転科し、ピツェッティに師事。卒業後、アルフレード・カゼッラに注目され、作曲家として世に出る。32年のアンドレス・セゴビアとの出会いを機に100曲を超えるギター作品を作曲し、ギター曲の第1作「ギター協奏曲第1番」で20世紀ギター音楽の作曲家として評価を得る。1939年に渡米し、『そして誰もいなくなった』『カルメン』など映画音楽の作曲家としても活躍した。

関連イベント



●トークイベント **参加無料** **要事前予約**

「フアン・ラモン・ヒメネスの詩の源泉：モゲール村と日本詩歌」



「プラテロとわたし」の舞台となったモゲール村と共に、日本詩歌もヒメネスの詩に多大なインスピレーションを与えていた。この意外な事実を、ヒメネスの生涯や彼の人柄、モゲール村、日本と西洋の詩の概念の違いなどについて話しながら解き明かしていきます。

- スピーカー／田澤 佳子(比較文学／関西大学講師)
- 日時／10月3日(日)14:00～15:30
- 会場／研修室2
- 対象／小学生以上
- 定員／40人



●コンサート「プラテロとわたし」 **チケット予約受付中**



イタリアの作曲家、カステルヌオヴォ＝テデスコが、「プラテロとわたし」から28編を選び、ギターと朗読のための作品を作曲。美しく、優しく、時に強く語りかけるこの作品を、着彩銅版画「プラテロとわたし」の展示とともに、ギターと朗読、歌で全曲演奏します。

- 出演／大萩 康司(ギター)、波多野 睦美(メゾソプラノ、朗読)
- 日時／10月24日(日)12:30開場、14:00開演
- プログラム／マリオ・カステルヌオヴォ＝テデスコ：プラテロとわたし 全曲(訳詩：波多野睦美)
- 展示：山本容子銅版画作品「プラテロとわたし」全28点
- 会場 コンサートホール
- 料金／一般3,000円、ユース(25歳以下)1,000円 ※フレンズネット会員2割引

**山本容子プレトーク** コンサート上演前に、銅版画家 山本容子によるプレトークを行います。  
■日時／10月24日(日)13:00～(12:30開場)



コンサート当日限定のスペシャルランチ

作品の舞台であるスペインの食材、そしてロバのプラテロが好きなオレンジや無花果を使った特別ランチメニューをご用意しました。



《ご予約・お問い合わせ》  
アンニヴェルサリオストランテ ラルゴ TEL. **0837-63-1417**

感染症拡大防止対策について

- ご入場いただいた全ての皆様に氏名及び緊急連絡先をお伺いいたします。お預かりした個人情報は、当該公演・イベントの来場者から感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ提供される場合があります。
- 公演・イベント当日は、検温を実施いたします。37.5度以上の発熱や咳などの症状が確認できる場合は、ご入場を遠慮いただきます。
- 感染予防のため、ご来場の皆様にはマスク着用、咳エチケット、手洗い/手指の消毒をお願いいたします。
- 発熱、咳、咽頭痛などの症状がある者、過去2週間以内に感染拡大している国・地域への訪問歴がある者、大人数の来館、来場はご遠慮ください。
- 厚生労働省が提供している新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のインストールをお願いします。

秋吉台国際芸術村では感染症拡大防止対策として、左記の対策を行っております。チケットご予約にあたっては内容についてご理解いただいた上でお申し込みください。最新情報は芸術村HPでご確認いただけます。

**秋吉台国際芸術村**  
〒754-0511 山口県美祿市秋芳町秋吉50  
TEL.0837-63-0020 FAX.0837-63-0021 (E-mail)info@aiv.jp



山本容子 銅版画原画展

プラテロとわたし

数多くの書籍の装幀や挿絵、絵本、壁画制作など第一線で活躍する銅版画家、山本容子。「詩画集 プラテロとわたし」に収められた全28点の原画をコンサートホールで展示します。

2021 **10 / 25** mon → **31** Sun 9:00~17:00

会場 **秋吉台国際芸術村 コンサートホール**

**入場無料**



## 山本容子 銅版画原画展

# プラテロとわたし

スペインを代表する詩人フアン・ラモン・ヒメネスによる138編の散文詩「プラテロとわたし」(Platero y yo/1914)。故郷アンダルシア地方モゲール村で過ごした日々が、銀色のロバ、プラテロにやさしく語りかけるように描かれ、ヒメネスの代表作として世界中で愛されています。

イタリアの作曲家、カステルヌオーヴォ＝テデスコはこの詩集から28編を選び、ギターと朗読のための作品を作曲。2019年に発表された大萩康司(ギター)・波多野睦美(メゾソプラノ、朗読)デュオによるアルバム「プラテロとわたし」では波多野睦美によって音楽に合わせた新たな日本語訳が生まれました。このアルバムのアートワークを手掛けた山本容子もまた28編一つひとつに優しい版画を添え、「詩画集 プラテロとわたし」を発刊しました。

## プラテロと詩人



戻り道

》 故郷で心の療養中の詩人が、感じ、悩み、穏やかに過ごす傍らにはいつもロバのプラテロがいました。ふたりの距離や関係性が版の配置やずれなどから感じられます。



日曜日



友情

## 生物たち



春

》 鳥や蝶、植物など、たくさんの生物が登場します。版の形や色づかいから伝わる躍動感が記憶に残ります。



道端の花



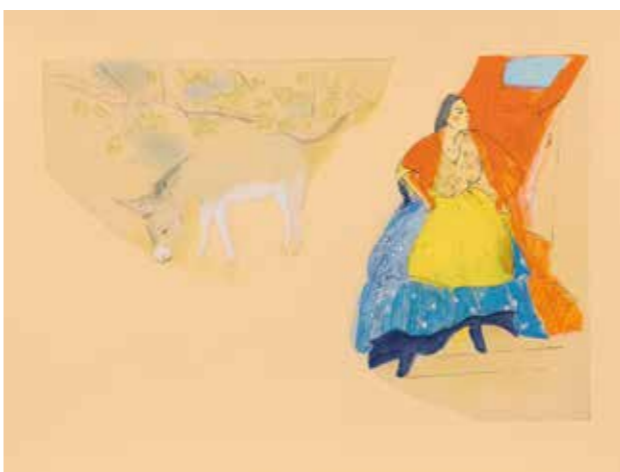
すすめ

## 人々



結核の娘

》 ふたりが出会う人々もまたプラテロの多彩な表情とともに魅力的に描かれています。



ジプシーたち



カーニバル



## 山本 容子 (銅版画)

Yoko Yamamoto

銅版画家。1952年、埼玉県生まれ大阪育ち。京都市立芸術大学西洋画専攻科修了。都会的で軽快洒脱な色彩で、独自の銅版画の世界を確立。絵画に音楽や詩を融合させるジャンルを超えたコラボレーションを展開。数多くの書籍の装幀、挿絵を手がける。絵本やエッセイの著作も多い。近著に「詩画集 プラテロとわたし」がある。また、医療現場で壁画制作の創作にも活動の場を広げている。

公式サイト <https://www.lucasmuseum.net/>